

3) サルモネラの疫学

¹ 国立感染症研究所 細菌第一部○泉谷 秀昌¹

薬剤耐性の問題は、わが国のみならず世界的に重要なテーマとなっていることは言うまでもない。昨今、薬剤耐性のリザーバーの一つとして注目されているのが、家畜・家禽などの食用動物であり、食用動物に対する抗菌薬の使用と薬剤耐性の発生・伝播、そしてヒトへの健康危害の懸念が注目されている。サルモネラは主要な食中毒起因菌であり、わが国でも年間 2,500 名近い患者が発生している。サルモネラは 2,500 種類以上の血清型からなる。Zoonosis の起因菌でもあり、さまざまな生物に感染しうるし、また、さまざまな生物に保菌されうる。本菌は、食用動物およびその関連食品からもしばしば分離される。したがって、サルモネラは、薬剤耐性が食用動物からヒトへ広がる経路の一つとなりえる。同様に、食用動物およびその関連食品に存在する常在菌における薬剤耐性、そして、常在菌を介した薬剤耐性の伝播も近年注視されている。しかしながら、薬剤耐性サルモネラは、その病原性によって直接ヒトへの健康危害につながる可能性がある点で、常在菌における薬剤耐性よりも深刻な問題を孕んでいる。例えば、サルモネラでは、血清型 Typhimurium における多剤耐性の問題が古くから指摘されており、1990 年代ではアンピシリン、クロラムフェニコール、ストレプトマイシン、サルファ剤、テトラサイクリンの 5 剤に耐性を示すファージ型 (definitive phage type, DT) 104 の世界的な流行があった。また、2000 年代からはフルオロキノロン低感受性あるいは耐性の問題が生じ、わが国でも多剤耐性かつフルオロキノロン耐性 Typhimurium DT12/193 による感染症が発生している。近年では Typhimurium のバリエーションと思われる *Salmonella* I 4:i:- の発生も報告されている。また、食中毒における主要な血清型である Enteritidis においても、キノロン耐性が検出されている。本シンポジウムでは、薬剤耐性の問題を交えながらサルモネラの疫学についてのトピックを紹介する。